

美術科 1～3年

制作・振り返りでの活用

担当 矢治 朋恵

[3年生]

題材：私との対話 ～卒業作品のペン画制作～

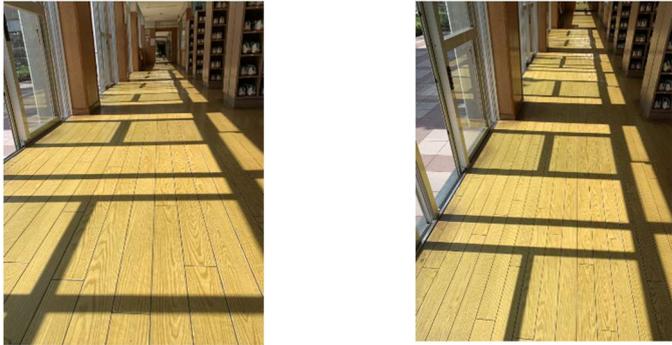
場面：発想を広げ、構想を練った後、全体の構成を決めて制作を始めた段階

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>Classroom を使って「質問」 「作品を進めるにあたってどんな点で悩んでいますか。また、難しく感じていますか。」 →自由記述で回答を提出させる。</p> <p>【ICT を活用する良さ】 ○Chromebook でいつでも確認ができる。 ○文字データになっているので、困りや悩みが、発想面なのか、技能面なのか、それ以外なのかということがすぐ分けられて見やすく編集できる。</p> <p>【改善すべき点と原因または改善の見通し】 ・編集することで見やすく手元に残すことができる反面、手間もかかる。紙ベースでも近いことはできる。 ・テキストマイニングをすれば手間もかからず、生徒にもみんなの困りを共有できる。</p>	<p>ワークシートを紙で配付・回収 内容を見て分類しながら、指導につなげる。</p>

[2年生]

題材：視点の冒険（風景画）

場面：視点の変化や構図の工夫で印象が変化することを感じとる、主題を決定する場面

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>Chromebook のカメラを使って、描きたい風景を写真に撮る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>【ICT を活用する良さ】 ○微妙な変化を撮った写真を比べることにより確認することができる。 ○画用紙に描く時に立体を見て描くよりも、形の見え方などの確認がしやすい。</p> <p>【改善すべき点と原因または改善の見通し】 ・写真だからよく見える風景を主題にし、描く難易度が非常に高い風景を選んで苦労している生徒が数人いた。「何をかくのか」を考える部分の指導も必要だったと感じる。</p>	<p>簡単なスケッチをして、構図を確認する。 →何枚も描くことは難しいので、数枚での検討になっていた。</p>

[1年生]

題材：見つめると見えてくるもの（スケッチ）

場面：制作が終了後の作品の振り返りと、相互鑑賞の記録。

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
<p>Classroom を使って「課題」としてドキュメントを配布。 ドキュメントに、自分の作品を写真に撮って貼り付ける。 制作の振り返りと、グループ鑑賞を行った3名の鑑賞文を入力し提出する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【ICT を活用する良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際の作品を写真で張り付けることで一つのシートで振り返りなどを見返すことができる。 ○字の大きさと空白を埋めることがないので、どれくらい書けているか同じ基準で比較することができる。 <p>【改善すべき点と原因または改善の見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手書きよりもまだ時間がかかることで、鑑賞文の内容の深まりがないように感じる。表面的な部分しか書けていない生徒も多いので、今後は振り返りをタブレットで、鑑賞はワークシートに分けようと思う。 	<p>ワークシートを作ってプリントに記入する。 →考えながら書いてまとめるという作業に慣れているのでしっかりと考えをまとめることができる。</p>